2022 年第 5 号(9 月発行)

神戸市感染症の話題

事務局 神戸市保健所保健課

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

結 核

結核を含む感染症は感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)に基づき、医療機関からの発生届の情報が国のサーベイランスシステムに登録され、それにより、日本の感染症の発生動向調査が実施されている。令和 4 年 8 月、2021 年の「結核登録者情報調査年報」が厚生労働省から発表され、全国の結核罹患率は 9.2 と 10 未満となり、日本は低蔓延国の仲間入りをした。
(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095_00007.html)

神戸市の 2021 年の結核登録者情報調査年報について、全国と比較して説明する。

1. 結核罹患率(人口 10 万人に対する新登録結核患者数)
   2021 年の結核罹患率は全国では 9.2、神戸市では 13.2、政令指定都市の中(東京都特別区を含む)で、高い方から 5 番目である。市内で最も罹患率が高いのは長田区の 22.3 で、次いで兵庫区 17.5、北区 14.8 であった。一方、罹患率が低いのは灘区 8.8、垂水区 9.9 と全国並みの 10 未満である。人口の少ない区では変動が大きいが、旧市街地である 3 区(中央・兵庫・長田)の罹患率が高い傾向は続いている。(表1、図1)神戸市全体では神戸市結核予防計画 2020 の目標である結核罹患率 17.0 未満を達成できた。しかし、コロナ禍の影響(健診や医療機関への受診控え等)で診断患者数が低下しているだけの可能性は否定できず、今後は患者の早期発見に努めたい。
2. 新登録結核患者数(1 年間に患者として届出られ登録された患者数、再治療を含む)
   新登録結核患者数は全国では 11,519 人で前年より、1,220 人(11.3%)減少している。神戸市では 201 人で、前年より、12 人(約 5.6%)減少した。2019 年に 1.5%増加したので、1 年ごとでは多少の増減がありながらも、患者数は減少していく過程と考えている。(表2、図1)
3. 喀痰塗抹陽性肺結核患者数及び罹患率(肺結核患者のうち、喀痰をガラス板に塗り顕微鏡でみて菌がみつかった患者(菌量が多い、他人への感染性が高い)数、及びその人口 10 万人に対する罹患率)
   喀痰塗抹陽性肺結核患者数は全国では 4,127 人、罹患率 3.3 で、神戸市では 77 人、罹患率は 5.1 である。神戸市結核予防計画 2020 の目標である喀痰塗抹陽性罹患率 7.0 未満は維持できた。これをさらに減少させるため早期発見に努めたい。(図2)
4. 結核菌の感受性検査結果
   結核菌は、薬剤耐性が誘導されやすく、3～4 剤の多剤併用療法が標準治療である。主要な薬剤の INH,RFP の 2 剤が耐性であれば多剤耐性結核(MDR)である。新登録肺結核培養陽性患者は全国で 5,902 人、うち、薬剤感受性結果が判明しているのは 4,551 人、MDR は 41 人(0.7%)であった。神戸市では培養陽性患者 132 人、全件感受性が判明して

おり、MDR は 0 人であった。菌情報の把握に努め、患者の服薬完遂まで支援している成果と考える。

5. 年齢階級別新登録結核患者数（図3）
新登録結核患者を年齢階級別にみると、70 歳以上は全国では 7,314 人で 63.6%、神戸市では 143 人で 71.1%をしめる。80 歳以上は全国では前年より 352 人減少して 5,073 人(44.1%)、神戸市では 22 人増加して 107 人(53.2%)であった。70 歳以上の結核患者は合併症や年齢による免疫力の低下により発病していると考えられるが、何となく元気がない、食欲が低下してきたなどの症状が結核のはじまりのことがある。

6. 小児結核(0～14 歳の新登録結核患者)
小児結核患者数は全国で 29 人、前年から 23 人（44.2%）の減少となっている。重症結核例は、粟粒結核の 0 歳の患者が 1 人であった。神戸市の小児結核は 2017 年に 3 人、2018 年・2019 年には 0 人、2020 年に 2 人で、2021 年に 1 人であった。コッホ現象からの発見で、胃液の TB-PCR が 2 回陽性で、活動性結核と診断したが、培養は検出されず、感染源は不明である。

7. 外国生まれ新登録結核患者数
全国では前年から 98 人減少し、1,313 人となった。神戸市では 12 人と 10 人減少したが、全新登録結核患者の 5%を超えている。20 代においては新登録結核患者 10 人中7人(70%)が外国生まれであった。全国でも 20 代の新登録結核患者に占める外国生まれ患者の割合は 72.6%となっており、依然として高い割合となっている。結核の罹患率が高い国で生まれ、大学・語学学校などの留学生として来日し、発病している人が多い。入国前結核スクリーニングが稼働すれば、入国 2 か月以内の発病者は減ると予想される。しかし、結核は潜伏期間が長いため、その後も年1回の健診の受診勧奨とそこで発見される人を速やかに治療につなぎ、感染拡大の連鎖を絶つことが重要である。

8. 潜在性結核感染症（結核菌に感染しているが、症状・所見はなく発病していない状態：Latent Tuberculosis Infection LTBI）治療が必要な例のみ届出る。
全国では 2021 年 5,140 人で、前年より 435 人減少、神戸市では 64 人で、前年より 4 人減少している。接触者健診で発見し治療する人より、生物学的製剤などを使う治療に際し、治療が必要となる人が増加し、60 歳以上が約半数を占めている。（図 4）2021 年 10 月 18 日の医療基準の改定により、INH, RFP2 剤で 3～4 か月というレジメが追加承認された。

表1 罹患率（人口 10 万人あたり）

年	2019	2020	2021
神戸市	17.2	14.0	13.2
東灘	13.5	12.6	10.8
灘	20.5	8.0	8.8
中央	20.4	15.6	14.2
兵庫	26.1	22.0	17.5
北	14.1	12.4	14.8
長田	33.6	21.1	22.3
須磨	10.7	12.0	13.3
垂水	14.3	13.5	9.9
西	15.8	14.2	13.5

令和 2 年国勢調査の人口集計値で計算

表 2 新登録患者数（人）

年	2019	2020	2021
神戸市	262	213	201
東灘	29	27	23
灘	28	11	12
中央	29	23	21
兵庫	28	24	19
北	30	26	31
長田	32	20	21
須磨	17	19	21
垂水	31	29	21
西	38	34	32

図1　各区罹患率

人口10万人に対する患者数
（2018年～2021年　新規患者）

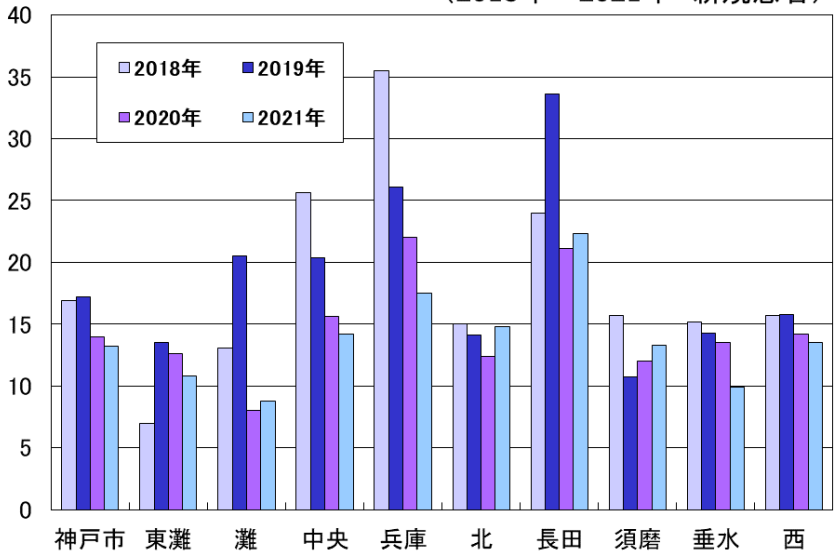

図2　新登録結核患者数（年次推移）　神戸市

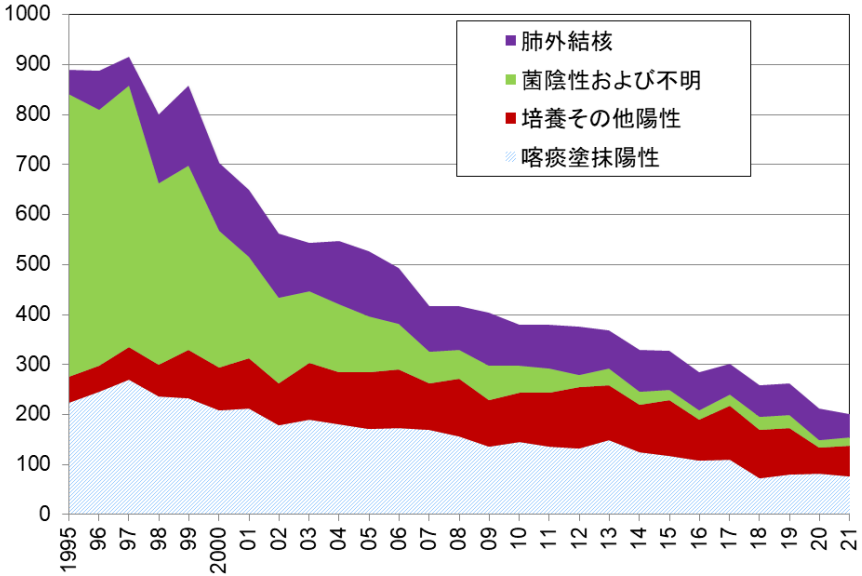

図3　新登録患者年齢分布　神戸市

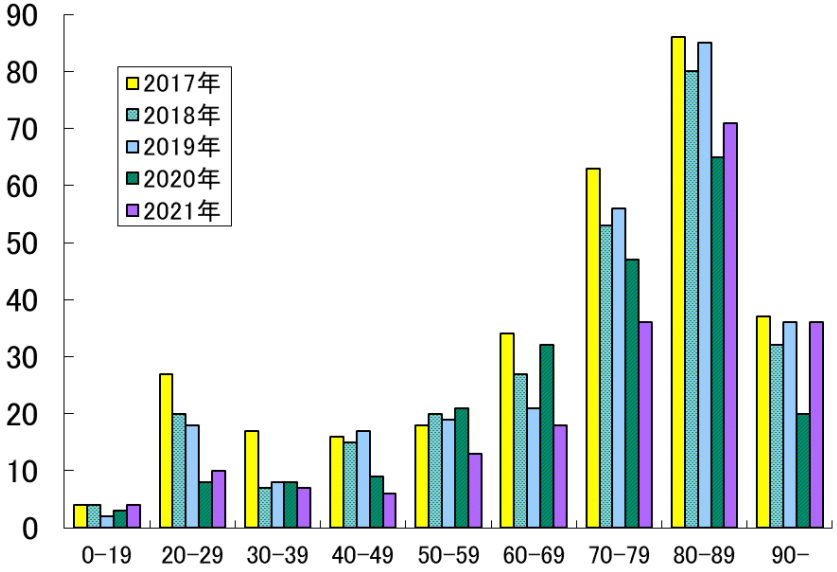
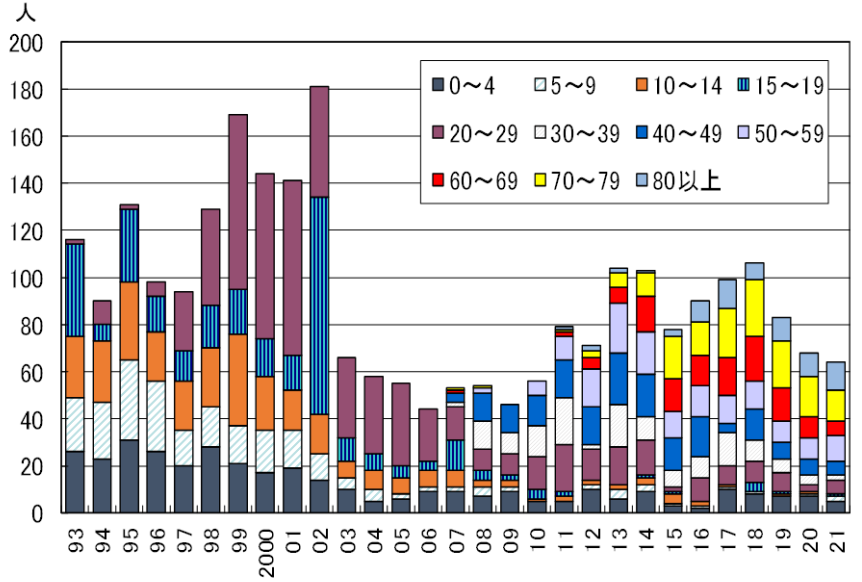
図4　潜在性結核感染症登録者数の推移（神戸市）